

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200718		
法人名	(株) エーアイエム		
事業所名	グループホーム えいむの杜		
所在地	静岡県清水区北矢部851-1		
自己評価作成日	平成31年2月12日	評価結果市町村受理日	平成31年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&jigyosyoCd=2294200718-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は「私らしくあなたらしく、住みなれた地域で安心して笑顔で暮らす家」を理念に掲げ、個々の生活歴を尊重し、安心して生活していただけるよう支援しております。併設の小規模多機能型居宅介護の利用者様との交流も盛んで、気の合う方同士でおしゃべりしたり、レクリエーションに参加しております。同法人の訪問看護ステーションエイムと医療連携体制のもと、日々の健康管理や異常の早期発見、緊急時の対応など協力があり、利用者様・職員共安心して過ごす事ができております。協力医や主治医の往診も実施しており、問い合わせ等もこまめに行い連携がとれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所からの利用者は此処での生活が9年となり、未だに壮健で日々の安寧が覗えます。防災訓練年2回の内1回は、南海トラフ地震(昼食後ゆったりした時間帯で揺れが4、5分)を想定して時間計測もおこない、法人では毎月BCP会議も開催しており、防災対応は事業所で力を入れていることの一つです。停電経験を経て発電機はお祭りのときにも積極的に使用して「有事に慌てないように」と図り、また管理者に防災関連の課題を投げかけられて興味を膨らんだ若手職員は、救命救急などの外部研修に意欲的に出向いており、事業所の本件への姿勢が職員育成にも功奏しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

静岡県(グループホーム えいむの杜)
自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内に理念を掲示し、職員一同日々実践に努めている。その人らしさを失うことなく、適切なケアをおこなうため、毎日密なミーティングをおこなっている。	職員配置が厚い14時前後に15分～20分のミーティングを毎日おこなっています。できるだけ課題をその場で解決のうえ1日の総括として夜勤者にバトンを渡し、「安心して生活していただく～」につなげています。	職員は自然な形で理念を推進できているようですが、達成や浸透の振り返りや度合いを把握する仕組みがあると、なお良いと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には、自治会長や民生委員が参加していただき、利用者様も毎回1名参加するよう努めている。週一回健康マージャンに利用者様が参加している。	事業所祭りでは射撃等子どもが遊ぶスペース、バザー、焼きそばと潤沢に用意したメニューに100余名が集まり、地域の夏祭りには利用者もでかけてカキ氷を堪能する等、双方の資源を利用し合っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、地域の方々からの質問に、わかりやすく回答させていただいている。11月の法人のお祭りでも、利用者様の参加で地域の方々との交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方・利用者様とご家族に参加していただき、状況報告や行事のお知らせなどをおこなっている。また、質疑応答などで出た意見は、ケア会議で検討し実践に活かすよう努めている。	運営推進会議と銘打ってはいても寄り合い的な様相が濃く、事業所でもメンバーの質問や相談に回答する説明の場と捉えています。法人内の事業所との併催ですが昨年11月から議事録を別に整えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加依頼と、運営についての相談は、市の担当者にその都度電話やファックス、訪問にておこなっている。議事録の送付も実施している。	玄関にはシニアサポーターの登録掲示があり、集団指導も必ず出席しています。本年は実地指導もあり、事業所の取組みにも理解を示してもらえ、また地域包括支援センターも運営推進会議へ出席くださっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年2名程度「身体拘束廃止フォーラム」に参加。毎月のケア会議では、身体拘束についてのミーティングを実施し、意見交換・知識の共有をおこなっている。法改正に準じたケアを実践している。	本年法改正については身体拘束廃止委員会を設置、指針も作成しています。毎月の会議の中で協議も真摯に重ねてはいますが、厚生労働省の通達原文のままとは言いがたい部分もあります。現状はスピーチロックに課題が残るも、職員間で注視し合っています。	委員会開催議事録の記載方法や、指針の中の研修実施に「年2回～」と入れるなど、年度末に向けて書面整備することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と主任は「認知症実践リーダー研修」、職員3名は「認知症実践者研修」の受講を修了している。虐待防止の意識を高めるよう、他職員も随時研修等に参加するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と主任は「認知症実践リーダー研修」、職員3名は「認知症実践者研修」の受講を修了している。成年後見制度を利用している利用者様がいるので、ケア会議等で話し合い、実践している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族が納得していただけるよう、十分な説明をおこなっている。特に入居時の規定については丁寧に行い、退去時には改善点等の振り返りを実施し、その後のケアの向上に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内にご意見箱を設置したり、運営推進会議でも意見交換をおこなっている。面会時や通院時などこちらからお声掛けし要望や疑問点など聞き取り、運営に反映させている。	行事報告に写真を豊富に盛り込んだ「えいむの杜だより」と、本人の月次報告を請求書と一緒に家族に郵送しています。家族から大きなクレームもなく、「こうしてほしい」的なことは言ってもらえています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に二回個人面談を実施し、管理者に直接意見が言える機会を設けている。申し送り等で問題点が出た場合、各部署に意見を伝え、早めの対応を心掛けている。	ケア会議が月1回、午後のミーティングが毎日実施されています。管理者、主任、リーダーが3本の矢となり、また性別や世代が異なることもあって、職員は自分に合った相談者を選べる体制にあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度・個人面接にて職員個々の勤務状況を把握し、反映している。また、個人面接以外にも職員の意見を聞き取り、就労しやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や業務に必要なものや、興味のある研修があれば、積極的に参加している。個々のスキルアップ向上の機会を逃さないよう、研修の案内の提示・勤務の調整をおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域連絡会や包括支援センターの主催の会議などに参加し、他事業所との交流の機会を設けている。祭りや研修会などに他事業所の方を招き、交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人・ご家族とお話し、利用前の不安や要望を聞き取っている。入所前の暮らしや生活歴を記入していただき、アセスメントシートや介護計画書に反映し、ケアに活かす様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所内の見学・説明をおこない、希望や要望を事前に把握している。申し送りノート等利用し、職員間で情報を共有することに努め、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にグループホームの特性を説明し、その方にあった支援をアセスメントし、サービス提供している。福祉用具の選定も、職員間での検討ののちご家族に説明・同意の上導入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かした自立支援を元に、その日の心身の状況を把握し、コミュニケーションを密にとるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や通院時等に情報共有・コミュニケーションを図っている。「えいむの杜たより」や毎月の報告書にて日々の生活の様子を伝え、信頼関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族や知人の方がいつでも面会に来ていただけるよう、面会時間の設定をしていない。外出が可能な方はできる限りご家族の協力を頂き、なじみの場所や外食等に出掛ける機会を作っている。	法人の地域交流館へと健康マージャンに行くのが愉しみな人、ワイン代わりに葡萄ジュースで毎晩寛ぐ人がいるほか、「そこでしか…」と頑なに以前の理美容を続ける人には職員が送迎の支援をおこなっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を考慮した配席を心掛けている。コミュニケーションの苦手な方は、職員の声掛けを増やしたり、併設の小規模多機能の利用者様と交流できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様より相談等受けた場合は、適時情報提供等し対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と家族との連絡を密に取り、希望や要望などの思いを汲み取り、ケアに活かしている。日々の生活の中で気づきがあれば、申し送り時等で共有し、実践に努めている。	昼食後の穏やかな時間帯には職員が隣りに座って寄り添ったり、入浴や外気浴などの場面において想いや意向を聞くようにしており、その日の気づきはその日のうちにミーティングで共有しています。	浴剤は職員が決めてしまうこともあるようです。種類を備えていることもあって、一番風呂の人のみとはなりますが、利用者を選んでもらえる、なお良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等を記入してもらい、入居前の生活状況を把握している。ケアマネやご家族より常に情報収集し、本人との会話の中からも見つけ出すよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時間ごとの介護記録と支援経過の二種類の記録を実施し、生活リズムの変化や通院の様子などを日々検討しケアにつなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回ケア会議を開催し、個々のケースについて意見交換を密に行い、介護計画書に反映している。入院等でケア内容に変化があった場合には、その都度計画書の見直しをおこなっている。	加算はとってはいませんが、法人内の理学療法士が専門的見地から指導、助言に立ち寄っていて、介護計画書にも貴重な意見として組込んでいます。また看護師配置も週1回あるため、同様に意見が加わっています。	専門家を加えたチームケアと成っていますので、サービス担当者会議にも出席若しくは意見を寄せてもらえるような手はずを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	時間ごとの介護記録に発言や行動の様子を記入し、職員間で情報の共有をしている。排泄・飲食摂取・内服の表を確認し、すぐにケアに実践できるような体勢になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、家族の状況を把握し必要なサービスを訪問看護ステーションと連携しながらサービスを見極めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	二ヶ月に一回運営推進会議を開催し、地域の方、民生委員、担当包括、利用者様とその御家族と情報を交換している。又シニアサポーター制度にも積極的に取り組み、園芸、施設内清掃のボランティア活動・健康麻雀への参加を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にご家族の付き添いのもとかかりつけ医に受診していただいている。日々の様子をお手紙を通してご家族に伝え受診していただき適切な診療に結びついている。利用者が通院困難な場合協力医の往診、通院介助をしている。	月1回訪問診療をおこなう協力医に1名が変更し、また1名は家族が遠方なため、職員が通院介助しています。他7名は従来のかかりつけ医を家族の付き添いで受診し、口頭での報告は『通院記録』に残しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の訪問看護ステーションの状態観察と共同で相談すべき内容を把握し、看護師と相談の上、受診が必要なのかどうかなどの判断としている。又、日々の変化の早急な対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず施設長もしくはケアマネがご本人、ご家族に面会を行っている。利用者の状態把握に努め退院に向けて病棟担当室看護師、地域連携室と面会を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を伺いかかりつけ医、併設の訪問看護ステーションと連携を図り、終末期ケアの取り組みを行っている。看取りケアの話し合いの場を随時設けている。	契約時に『重度化対応・終末期(看取り)ケア対応指針』で説明するとともに同意書を得ています。心身状態に変化があれば、医師の意見を仰いで『看取りについての事前確認書』をベースに家族と話し合い、方向性を決めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故報告書やヒヤリハットを作成し、ケア会議時に議題にしている。救急搬送情報記録票を作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練を行っている。月1回法人でのBCP会議を開催し、施設長・主任・事務員が参加し、予期せぬ事態にどう対処するか話し合い、今後の防災の方針を決定している。	年2回の内1回は、南海トラフ地震(昼食後ゆったりした時間帯で揺れが4、5分)を想定して、避難の時間計測もおこなっています。また法人ではBCP会議を開催していて、今夏には完成の予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症による精神的、心理的な症状、問題行動が利用者様個々により異なり、身体介助やコミュニケーションをとる際には、言葉かけや相手に視線を合わせるなど慎重に行い対応している。	個人情報を含み、面会簿は転記のうえ原本は廃棄しています。「私語はしない」「～ちゃんづけはしない」は未だ課題としており、主任とリーダーが目配りしていますが、いずれの職員も気持ちの良い挨拶ができます。	トイレには氏名が入ったボックスがありましたので、イニシャルなどに変更できたら、良いと重めます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間の許す限り、利用者様と常日頃から会話し本人の希望や思いを傾聴して理解し本人が自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の個別の生活リズム、パターンに合わせて声掛けしながら、本人のその時の希望や意見を取り入れ介助・対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節やその日の天気に合わせて服を身につけていただいたり、ご本人の気分に合わせて好みを聞き取っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に食事の準備はしていないが、レクの際に本日の食事の話題を提供したり、食後の食器拭きのお手伝いを共にこなしている。介助が必要な方も、職員と会話をしながら召し上がってもらっている。	職員が時々手作りしてもいますが、食事は昼、夕食は業者搬入の献立です。義歯の具合が悪く、ミキサー食となっている人、認知症が進んで「食べる」という行為が難しくなっている人の2名には介助が必要です。	食事介助を数名の職員で交替でおこなう場面を視認したことで、利用者本人が気持ちよく食べている、いないの差がみられましたので、一度勉強会をおこなうことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に摂取できる量や形態を把握しており、その日の体調の変化により水分量の調整等おこなっている。毎食時以外にも適時水分補給の機会を設けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯がない利用者様で、自立している方に対しては毎食後、声掛け、誘導して本人の意思と行動に任せている。義歯を使っている利用者様に対しては個別で義歯をしっかりと洗って口腔内の食べかすを取り除く様全ての行為を見守り、声掛け、介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を目安に、個々のタイミングで声掛け、誘導、介入をして行っている。本人の排泄がスムーズになるよう様々なアイデアを出し合い、実践している。	特に向上したというケースはないものの、尿意があり「トイレに行きたい」との訴えから、日中は布パンにパットで本人の意向に沿った例もあります。夜間は誘導、おむつ交換を提示でおこない、清潔を優先しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロール表を作成し、下剤などの調整を行い、便秘にならないようにしている。又、野菜、果物などのジュースを提供したり、家族にヨーグルトを持参してもらい、定期的に摂取している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人のタイミングにあわせ、お誘いしている。タイミングの難しい利用者様には、無理強いせず少し時間をずらしたり、夜間に下着だけ替えてもらう等の配慮をしている。	併設なことから、脱衣場を共有する2つの浴場があり、内1つにはリフトがあります。「どちらかと言うと嫌又は拒否の人が多く、「薬を塗りたいので～」といったその人の気持ちが動くフレーズを職員間で共有しています。	現在怖がる利用者はいないとのことですが、リフト浴は操作する側の介護士も乗る側を一度経験すると、なお良いと思います。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りの浅い方や夜間不眠の人とは、無理に休んでもらわず、フロアで共に会話したりお茶を飲んだり、コミュニケーションをとり安心してもらえるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用ポケット、服薬確認表の二重チェックを行い管理している。症状の変化により看護師、医師と連絡を取り、必要に応じて通院したり、内服の見直しを実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの利用者様にやりたい事、好きな事を伺い、可能な限り提供をしている。気分転換ドライブなどに出掛けたり、馴染みの歌のカラオケで歌ってもらっている。健康麻雀に毎週喜んで通っている利用者様もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	それぞれの希望に沿って、職員との買い物同行・馴染みの床屋・散歩等出掛けられるよう努めている。時々外食の機会を設けるようにしている。	初詣、いちご狩、花見、清水の七夕祭りは外出行事の定番となっています。中華、回転すしの外食や大型ショッピングセンターで買い物とフードコートで好きなものを選んで愉しんでいます。本人の気分等に沿って散歩や外気浴もおこなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	盗難、紛失を考え、預かり金を事務所にて管理してもらっている。利用者様が希望する時に職員が同行し買い物の支援をしたり、近くのコンビニエンスストアへ散歩し欲しいものを買って来てくれる事もある。通院等で使用する際も、預かり金から使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望される方は必要に応じてスタッフを介したり、直接事務所の電話で連絡し、ご家族や友人等と会話を楽しんでいただけるよう支援している。個人宛の年賀状も届いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔、整理整頓を心掛け、空調の調節や加湿、換気を適時行い、環境設備に勤めている。ごみ類も時間を決め回収している。中庭に花や植木を置き、フロア内も季節に応じた装飾をし、少しでも自然や季節感を大事に感じてもらえるよう配慮している。	小規模多機能事業所と併設で、リビングをはじめとする各空間には壁がなく(間仕切りとし腰高の棚がある)、一体化しています。そのため職員数が多く感じられ、賑わいがあります。	キッチンの棚や脱衣所等、棚の上に物が乗っていますので、5Sとともに是正を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係を把握し座席の配慮をし楽しくコミュニケーションが取れるようにしている。ソファで少しの時間横になり休まれる方もいらっしゃったり、仲の良い方とともにつろぎ、会話が弾んでいる姿もよく見かけられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた枕や、時計、ラジオ、クッションなど好みのものを持参し安心して過ごしていただいている。その方に応じて枕の位置やベッドの高さ、寝具の調整を行っている。	入居当初は沢山持ち込んでも、段々と物を使うということなくなり、無用の長物となると家族がいたたまれないこともあり、持ち帰っていて、現状は目立ったインテリアがないという居室が多くあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせて自助具を使用している。自力での安全な移動ができるよう、専門職の指導の下、介助方法を常に検討し統一して支援している。		